

紹介

「コンプリートデンチャー特論」から学ぶこと

伊 藤 圭 一

明倫短期大学 歯科技工士学科

1. はじめに

平成19年6月9(土), 10日(日)と8月4(土), 5日(日)に, 臨床技工プロ講座の咬合再建技工コースであるコンプリートデンチャー特論が開講された。本講座は2005年度より開講され, 講師は佐藤幸司臨床教授が務められている。本講座は生体技工専攻の1年次専門科目に組み込まれているが, キャリアアップを図りたい, 技術向上のためにもう一度学びたいと考えている学外の歯科技工士でも受講可能なカリキュラムとなるように, 開講される曜日は土曜日, 日曜日となっている。

今年度の講座は受講生の専攻科1年生と学外受講生の他に, 聴講生の専攻科2年生や専攻科修了生も顔を出し, 真剣かつ和やかな雰囲気の中で進行していった。

本稿では, 本講座の内容紹介に加えて, 筆者が本講座から学んだことも併せて報告する。

2. 講座の内容について

コンプリートデンチャー特論では, 介護義歯(ケアデンチャー, 以下, 治療用義歯と記す)と機能回復義歯(ファンクショナルレストレーションデンチャー, 以下, 完成義歯と記す)の製作エビデンスの最新理論と技法を学び, 臨床技工(術式)のガイドラインを実習する内容となっている。

1) 講座前半の内容と様子

実習は佐藤先生と受講生が互いに自己紹介を交わすことから始まった。佐藤先生と受講生は, この日が初対面ということもあり, 若干硬い印象を受けた。しかし, 佐藤先生のお人柄と言葉を交わしあうことにより, 緊張した雰囲気はすぐに和らいだ様に感じられた。

本講座の前半は6月9(土), 10日(日)に治療用義歯に関する講義と実習が行われた。先生は, 顎位の是正や口腔粘膜の状態を改善することを目的に, 臨床では治療用義歯が用いられることがよくありテナティブデンチャー, パイロットデンチャーなどと呼ばれることもあると紹介され, その特徴を説明された。

粘膜面部の治療を行う治療用義歯の義歯床辺縁部の外形線は, 義歯に動きが出て痛みが出ないように, 不動粘膜部の範囲内に設定される。そして確実に, 治療用義歯製作の外形線を決定するには, 模型から得られる解剖学的なランドマークを読み取り, ガイドラインとすることの重要性を説明された。作業模型に治療用義歯の外形線が記入されたことを確認し, 次いで咬合床の製作に取りかかった。治療用義歯の外形線記入のガイドラインは個人トレー製作時にも応用可能であり, 日常の臨床技工や学生指導にも取り入れてみようと考えた。

咬合採得は, 総義歯を製作する上で最も重要なステップとなるため, 完成度の高い咬合床を製作しなければならない。佐藤先生は「そのためには, 適切なガイドラインの基に製作された咬合床でなければならない」と説明され, 咬合堤の位置や高さの基準を勘に頼ることなく, 統計学的なデータを参考にし, 性別の違いにも考慮されていた。

初日は, 咬合器に咬合床をマウントし, 終了した。

二日目は, 総義歯学における咬合理論と今回実習で行う治療用義歯の排列の要点を講義していただいた後, 佐藤先生が研究開発された治療用義歯用の人工歯を使用し, 人工歯排列と歯肉形成の実習に取りかかった。治療用義歯は口腔周囲の筋肉などを治療し, 咬むための土台をつくることが目的で, 効率良く咬むことを目的とした完成義歯とは, それぞれが

担う役割が違うということを受講生と共に勉強した。

2) 講座後半の内容と様子

講座後半は、8月4(土)、5日(日)に完成義歯に関する講義と実習が行われた。佐藤先生はイボクラールビバデントBPS公認インストラクターを務められており、完成義歯の製作はそのノウハウの一部も盛り込まれていた。

まず、機能回復後の完成義歯の製作方法と総義歯学の咬合理論についての講義が行われた。その中で、ゴシックアーチ描記の読み取り方やアングルの分類におけるⅠ級、Ⅱ級、Ⅲ級毎の人工歯排列の注意点は大変参考になった。

前歯部、臼歯部ともに人工歯排列される位置は、咬合理論や解剖学から得られたガイドラインを基に行われた。臼歯部の排列では、簡便かつ確実に前後的方向と側方の調節湾曲が得られる3-Dテンプレートを使用する排列方法を教えていただいた。また、歯肉形成では口腔周囲筋に調和した形態を表現することの重要性を生理的、機能的考察から知ることができた。

歯肉形成が終了するとイボカップシステムを用いた埋没、重合のデモンストレーションが行われた。イボカップシステムはレジンの重合収縮を補填できるシステムである。重合後の床は非常に硬いと説明を受けた。また、使用するレジンは粉と液が一回分毎にパックされ、品質管理も優れていると感じた。

予定通り、完成義歯の重合とレポートが宿題となり講座は終了した。

3. おわりに

本講座を通じて、科学的根拠を持ちながら歯科技工を行うことの必要性和、根拠を導き出すためのガイドラインの重要性を再認識することができた。

本講座で学んだ新たな知識と技術は、日常の臨床技工に活かすことはもちろんのこと、学生教育にも積極的に取り入れていきたいと考えている。

本講座の最大の魅力は、現在の歯科技工士界をリードする講師に、マンツーマンに近い形で技術指導を受けることができること、そして講座終了後も困ったことがあればいつでも講師に連絡を取り、アドバイスを頂くことができる関係を築けることにあると考えている。

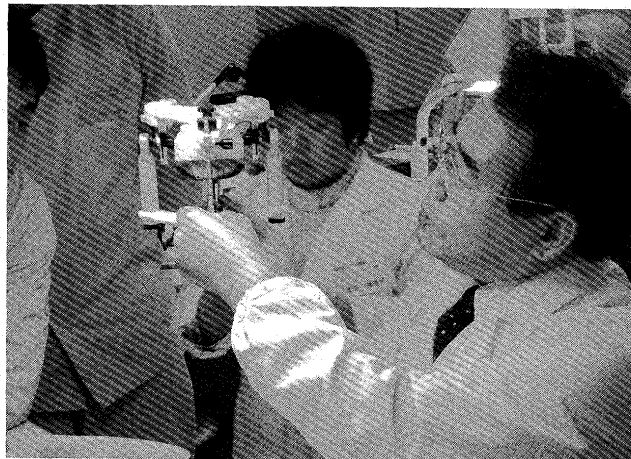


図1. 人工歯排列のデモンストレーション

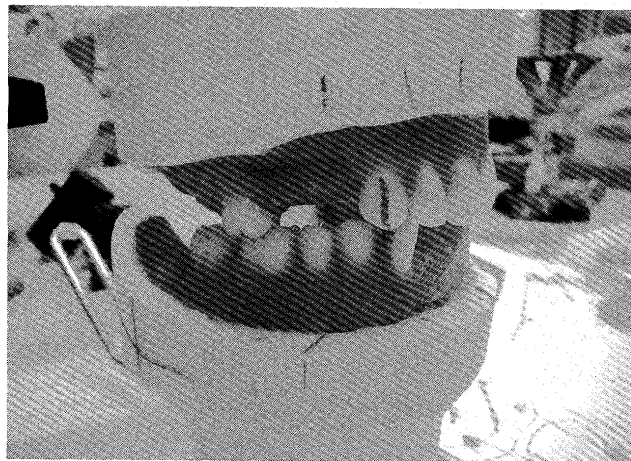


図2. 人工歯排列の様子

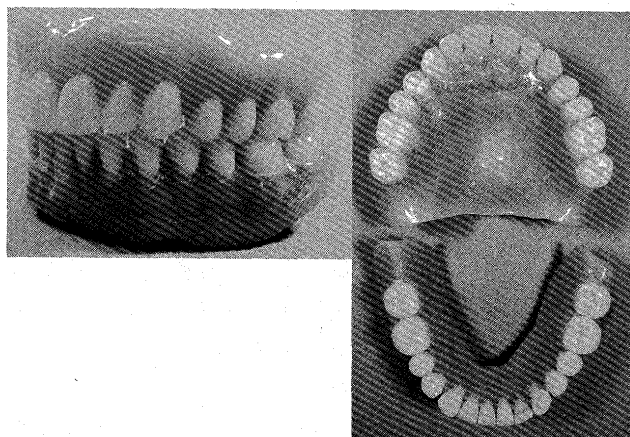


図3. 完成した上下顎総義歯

文 献

- 1) 佐藤幸司：コンプリートデンチャー特論～臨床技工プロ講座開講2年目によせて～. 明倫歯誌, 9(1): 76-77, 2006